

六所つれづれ



豊田市総合野外センター
平成31年4月15日 1号

4月、新しい年度が始まりました。そして、間もなく新元号が始まります。ここ六所の総合野外センターも、春のキャンプシーズン到来とともに、本番を迎えます。昨年末以来、場内整備や新メニューの開発、新しいハイキングコースづくりと、着々と準備を進めてきました。

センター職員一丸となって事業に取り組み、利用のみなさまの「笑顔と幸せと自然とのふれあい」をめざしてまいります。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

キャンプ、到来

題名の「キャンプ」ということは、造語です。キャンプが旬のころを迎えました、という意味です。春の到来とともに、大地から草木の芽が出始め、新緑の準備が整いつつあります。そして、鳥や虫や花々も、じっと我慢の寒さから抜け出そうとしています。

いよいよ六所のシーズンがやってきました。冒頭でも述べたように、冬の時期は利用の方々にとっては「オフ」ですが、私たち六所の職員は着々と準備と整備に努める期間でした。それは、キャンプ場内の整備に始まり、新たなプログラムの開発やホームページの刷新、新ハイキングコースづくりなど、いろいろな取組が含まれます。

ここでは、新ハイキングコースづくりと小中学生向けのプログラムの開発について紹介します。

① 新ハイキングコース

その名もずばり「ウグイスコース」です。ちょうど今、ここを歩くと「ホーホケキョ、ケキョ、ケキョ、ケキョ」



というウグイスの鳴き声が聞こえてきます。朝日山につながるコースで、コースの途中にはちょっと一休みの見晴らし台があり、ここからの景観は抜群です。遠く御嶽山や恵那山が一望でき、振り返れば、六所山や炮烙山が見渡せます。御嶽山や恵那山に連なる山々は、今まさに春化粧の装いです。

西駐車場下車し、真正面、北の方向をご覧ください。ここで登山口となります。施設利用の際は、ぜひともこのウグイスコースにチャレンジしてください。

なお、見晴台からの景観写真は、改めて掲載しません。お越しいただき、ご自身の目でご覧ください。

② 新プログラム

残念ながら天候に恵まれず…というみなさまのために、雨天活動プログラムを作成しました。「屋内自然あそび」というプログラムです。

場内の自然物を使った遊びで、幼年から大人まで楽しむことができます。もちろん晴天時の屋内遊びとしても活用できますので、宿泊に際しての活動の一つとしての利用も可能です。ゲーム形式で楽しむことができ、数種類の



遊び方を用意していますので、詳細はお問い合わせください。

小中の利用開始 こども園、幼稚園も

4月9日(火)、市内の中学校1年生のみなさんがみえました。平成31年度の第一号です。これをもって、本年度の小中、こども園・幼稚園、特別支援学校の利用がスタートしました。

いよいよ始まった。この思いでいっぱいです。着々と準備をすすめ、ようやくこの日を迎えることができました。いらっしやい、ようこそ、六所へ。

キャンプの醍醐味といえば、キャンプファイヤー、ハイキング、ふれあい活動、野外炊事と、数え上げればいっぱいあります。個人的には、野外炊事の煙が立ちこめると、キャンプが始まったなと実感します。この中学校もカレーライスづくりに挑戦です。

「あいさつ、協力、時間厳守」の三つの目標達成をめざすキャンプです。入学後、一週間にも満たない時期でのキャンプにもかかわらず、笑顔と優し



さのあふれる姿が各所にありました。小学校

5年生でキャンプ経験済みとはいえ火加減や水加減はなかなか難しいもの。

鍋は火にかけたものの、タマネギが入っていない、水がないと、大騒ぎ。これこそ、野外炊事の醍醐味です。自分がやったことがそのまま「ご飯やカレー」になって返ってきます。学校の授業では味わえない即効性のある取組ともいえます。それでも、笑いと和やかさの中ですすんでいくところは、キャンプのおもしろさです。同じ釜の飯を食う、を地のままいく活動です。



新しい時代が来て、削減や縮小、見直しが始まっています。この学校の活動を見守る中、「キャンプならでは」ということばがよぎりました。めざすことを明らかにし、失敗も成功も丸ごと受け止める、それが大切なのかなとあらためて思いました。

千客万来。ウェルカム。今年も六所の職員は、多くのみなさまのお越しを楽しみにお待ちしております。

事業、間もなく開始します

4月5日午前9時、野外センターの電話の呼び出し音が響きました。本センターの二つの事業の先着順受付が始まったのです。

午前9時の時報とともに、電話が鳴り始め、ひっきりなしに参加の希望が寄せられます。事業は、

① 「六所のつどい」

ーやってみよう！春のキャンブー

② 「ファミリーキャンプ5月」

の二つです。

①、②の事業ともに、即日で準備した募集枠がいっぱいになるという盛況となりました。ほんとうにありがとうございました。とくに、ファミリーキャンプは、当日の午前中に定員がいっぱいになるほどの状況でした。

大型連休の最中に開催する事業で、利用のみなさまの人气が高かったのではないかと分析しています。希望されたのに、お応えできなかったみなさま、たいへん申し訳ありません。

平成31年度の事業が始まりました。このあと続々と同様の事業が開催されます。今後の参加申し込みについては随時、ホームページで公開します。

六所ならでは…

先ほどの話題は、中学校の野外炊事のようなものでした。続いて利用のあった中学校も、特色ある取組がありましたので、紹介します。

2つの中学校に共通するのは、入学後一週間も経たない子どもたちの取組ということです。ともに「仲間づくり」と「約束」がポイントになっています。

仲間づくりは、三年間をともにする友だちとの心の通い合い、協力、助け

合い、思いやり。約束は、親しき仲にも礼儀あり、時間を守る、来たときよりもきれいに。いずれも、三年間の中学校生活の基礎となるものです。



写真をご覧ください。この中学校では、仲間づくりに迫るために、「大縄跳び」にチャレンジ。心をひとつに声をかけ合います。「せええのう、一、二、三」。しかし、そう簡単にことは運びません。何度やってもひっかかってしまいます。そのうちに、「ああすると」「こうすると」という声が出始めます。ひとつのことに熱中し、目標が定まった瞬間です。

写真のバックは、運動広場の周辺に広がる満開の桜です。六所ならではの自然を背景に、子どもたちの心が通い合います。ここでしかできないこと、その視点を大切にしたい取組だと思えます。小さなこと、でも、達成のために必要なことは何か。二つの学校の取組を今後の参考にさせていただきます。

それにしても、運動広場に響くかけ声はほんとうに清々しく、春の真っ青な空に吸い込まれていくようでした。六所ならではを満喫したひとときだったと思います。炊事場の煙と、運動広場の歓声、31年度が始まりました。

魂知和

暖冬と言われた予報どおり、

雪とは縁のない冬を過ごした。ここ六所も、年末に積雪があっただけで、準備万端のスタッドレスタイヤも活躍の場がなかった。振り返れば、夏の猛暑に始まった一年だった▼山には、里にない独特の季節感が漂う。季節の移ろいを目で見、耳で聞き、肌で感じるという五感がはたらきやすいからだろうか。はつきりしているのは、時間の流れや空間の広さに違いがあるということだ。とにかく、時間がゆったりと流れる。そして、山々や空は格段に遠く、広く広がる。一年を経て思うことは、待つことや間合いをみることの大切さである▼毎日の昼食が弁当になった。当たり前で過ごした給食の有り難さを痛感する。その弁当、必ず緑色の野菜が入る。レタス、ブロッコリー、アスパラガス…。給食では気づかなかったことに「気づいた」。夏でもないのに、緑色の野菜を当たり前のよう、日々、食することができる。この緑色の野菜、いつか旬はいつなのだろう。温室栽培や品種改良のたまものなのか▼山には季節感が強く存在すると述べた。一方、弁当箱には年中の野菜がある。便利さや都合のよさ、手軽さという宝物を手に入れたものの、旬という大切なものを見落としたのではないか。ここから眺める空の飛行機雲や季節の花々を、炊事棟から立ちこめる煙を見ながら考えた。六所は、利用本番のときを迎えた。